

❖ 学生の皆さんへ—書評を書いてみよう❖

大学は、自分が関心を持った事柄について深く研究することができる場です。そのためには自分なりの問いを大切に考えていくことが重要ですが、自分の問いを大切にすることは具体的にどのようなことでしょうか。それは、ただ自分のなかだけで大事に考えていくということではなく、同様の問いを持つ他者の見解に触れて、自分の問いを深め、発展させていくことといえるでしょう。

本を読んでその書評を書いてみることは、自分の問いを発展させるのに、大変よい機会になります。読書感想文も、書評と似ていますが、書評は読書感想文と異なって、その本をまだ読んでいない人に内容を正確に伝え、自分の意見を紹介するものです。その点で書評は、自分の想いを書けばよい読書感想文と違って、より他者を意識し、内容理解や意見に責任を持って書くものといえそうです。ぜひ大学生としてのあなたの視点からみて、その本から何が得られたのか、またどの点がよかったのかを客観的に伝え、あなたなりの書評を書いてみてください。

「神戸女学院の100冊」には様々な図書が推薦されています。自分の専攻する分野はもちろん、他の分野の推薦書についても挑戦してみてください。自分の関心を異なった角度から考えてみると、さらに面白い問いを発見するかもしれません。

書評を書くのに特に一定のルールがあるわけではありませんが、本の内容をまとめ、自分の意見を書くのに、どのような場合でも参考になることがらを以下に3点ほど挙げます。参考にしてみてください。

① 内容の要約をする

題名や紹介を通して自分の関心のある本を選んだら、実際に読む前に、その本が全体としてはどんなテーマを扱っているのか、全体を通して何がわかるのか、題名や解説などをみて確認してみましょう。また、著者は誰で、どのような仕事をしてきた人なのか、どのような資料を使って書いているのかなどもみてみるとよいでしょう。また、目次があれば、全体の構成を確認します。本を読んだら、章ごとにあるいは、全体の内容を大掴みにまとめてみます。ここでは、自分の意見を交えないで、書物の内容に関して客観的に簡潔にまとめるのがコツです。

② 内容に対するあなたの意見や評価を書く

次に上記でまとめた内容についてどのように思ったのか、自分の意見や評価を、理由を添えて書きます。例えば、著者の主張は、自分にとって新鮮であったか、とても有益であったか、どこが優れているのか、また明確か、曖昧なところがあるか、わかり易く書けているか、などについて書いてみましょう。このとき、自分はまだ大学生だからわからない、とは思わないで、内容についてしっかりと考えて、自分の意見を書いてください。

著者の全体としての主張を中心に自分の意見や評価を書く方法もあれば、章ごとに、分けて書く方法もあります。どちらにせよ、どの部分で自分がそのように判断したのか、証拠を示してより説得力のある意見や評価を書くようにしてみてください。引用には引用符と出典ページを付けます。

また、もし書かれている内容についてさらに知りたい、あるいは疑問を持った場合などは、別の関連図書などで調べてみるとさらによいでしょう。書物の巻末の文献一覧などから、異なる立場の見解を調べて紹介してみましょう。

③ 上記を文章にまとめる

序章と結論をつけ、まとめた文章にします。序章には、タイトルや出版社、出版年など書物に関する基本的な情報をいれ、テーマを提示してください。次に書物の内容を紹介し、意見や評価を述べ、結論で締めくくります。書き終わったら、全体を通してわかり易く論理的に書けているか、引用は正確かなどを確認します。

上記の①と②のバランスがとれるように書くとよいでしょう。書かれている内容を羅列するだけで、自分の意見や評価がほとんどないもの、反対に自分の意見や感想ばかりを書いて内容の紹介が欠けているものは、よい書評とはいえません。

最後に200字程度の概要をつけます。